A process for mitigating spiritual pain in patients with terminal cancer : the experiences of patients to help palliative care nurse

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Takahashi, Masako メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/19526

平成　21年　2月　20日

博士論文審査結果報告書

報告番号　医博甲第 2033 号

学籍番号

氏　名　髙橋　正子

論文審査員

主　査（教授）　稲垣　美智子　印

副　査（教授）　泉　キヨ子　印

副　査（教授）　島田　啓子　印

論文題名　A process for mitigating spiritual pain in patients with terminal cancer -the experiences of patients to help palliative care nurse-

（邦文：終末期患者のスピリチュアルペインが緩和される過程看護により癒される体験から）

＜論文概要＞

本研究は、終末期がん患者癒された体験とケア提供した担当看護師のかかわりから、解釈学的現象学によりスピリチュアルペインの緩和過程を明らかにした。対象は終末期患者16名とその患者の担当看護師12名であり、死亡するまで原則2回の面接を行い、データは解釈学的現象学的方法により分析した。「看護者のかかわりによって心が癒されたことや嬉しかった体験」と死亡までの心理状態を確認し、語られた内容がスピリチュアルペインであったかを確認した。

その結果、看護師が意図しない「看護師の日常的なかかわり」からは配慮されていると感じ、「看護師の意図的なかかわり」からは配慮してくれている言葉やケアと感じていること、この両者は、看護師「残された時間を意識し配慮している」なかで起こっていた。さらに患者が「自分に配慮された言動や行為」であると認知することによって、自分がおかれた状況を肯定的に意味づけし癒されていくことがプロセスをもつ構造として明らかになった。またそれぞれの要素も明らかになった。

＜論文審査結果＞

本研究は近年、WHOでも推奨されている終末期患者のスピリチュアルペインの緩和に着眼した。これまでのケアは傾聴が主な看護ケアだとされてきたが、本研究結果は配慮された看護師のケアと意図的な言葉がスピリチュアルペインの緩和に関与していたという新たな結果を示した。このことは終末期患者看護の実践および実践者への教育に大きく貢献ができると思われる。審査過程ではデータ収集の方法について半構成的面接の妥当性について指摘があったが、答弁等からも研究者として自立可能であり、博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。